

私立 新潟工科大学

取組名称 **地域の将来を担うものづくり技術者のキャリア支援プログラム**

取組担当者 **就職指導委員長・工学部 教授 斎藤 英一**

1. 本学の概要

本学は、新潟県内の製造業を中心とする経営者の方々が、「地元産業界発展のために、技術者を養成する大学を作りたい」という強い要望と期待を結集し、県や多くの市町村の賛同を得て、企業や団体、篤志家など約3,000件を超える浄財により1995(平成7)年に開学した。開学の推進力となった設立同盟会は、開学と同時に「新潟工科大学産学交流会」(以下、産学交流会)として発展的に発足し、インターンシップや就職支援、共同研究等で本学を全面的に支援する組織として、現在約210社の企業が参加している。

本学は、開学から15年目を迎えている工学部単科の私立大学で、機械制御システム工学科、情報電子工学科、環境科学科、建築学科の4学科による学部収容定員約1,000人の地方の小規模大学である。

建学の理念は、「ものづくりの視点を重視した工学教育を通じて、未知の分野に果敢に挑戦する創造性豊かな人材を育成する」としている。建学の理念を具体的に実現し、地方に立地する小規模大学ながら特色を持った魅力ある大学として将来的に存続発展していくために、2007(平成19)年度に「ビジョン21学園中期計画」(以下、中期計画)を策定し、2008(平成20)年4月より全学的にアクションプランを展開している。産学交流会との連携による「就職に強い大学」、助言教員制度と少人数教育という学生との接点を大切にする教育体制により「学生を育てる大学」として全国誌に上位評価を得ている。中期計画において本学のコアコンピタンスとすべく「キャリア教育トータルシステム」を構築中であるが、これは人間力と専門力の融合により「社会から期待されるNIIT人間力を備えた実践的技術者の育成」を目指すものである。(NIITは、新潟工科大学の英文略称)

2. 本取組の概要

本学の入学者は、約9割が県内出身者であり、毎年

約7割を超える卒業生が県内企業に就職している。また、開学以来の就職内定率は90%以上を継続しており、2009(平成21)年は99%という高い就職内定率となっている。このことから、設立の経緯となった県内に多くの技術者を輩出するという所期の目的は達成しているといえる。

しかし、昨今の景気の低迷から、特に地方における雇用情勢の悪化は著しく、今まで以上に学生の人間力と専門力を高めると共に、キャリア支援が必要な状況である。

本取組は、2008(平成20)年12月の中教審の答申に「大学は、企業の発する情報を必ずしも正確に理解しているとは言えず、また、企業も、自らの求める人材像や能力を十分明確に示していない」と指摘されているとおり、本学もキャリア支援の重要なキーワードは、情報の共有化と考えている。この課題に対応するために、学生、企業、教職員それぞれの持っている情報(現状、能力等)や要望・期待を共有化する仕組みづくりが重要である。また、学生に対する情報伝達方法の工夫と改善を行うことによって、学生にとって適切な企業情報の収集や選択が可能となる。更には、学生へのキャリア支援体制の強化により、学生の自主性を引き出すとともにこれを尊重しながら、地域社会の求める人材を育成し、送り出したいと考えている。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

本取組のキャリア支援プログラムは、本学における中期計画でコアコンピタンスと考えている「キャリア教育トータルシステム」を構築するための重要な仕組みである。「キャリア教育トータルシステム」が目指すものは、人間力と専門力の融合により「社会から期待されるNIIT人間力を備えた実践的技術者の育成」である。NIIT人間力は、「挑戦力」「創造力」「コミュニケーション力」という三つの力を身に付けた人材である。本プログラムの中で、これを体験し実践するこ

とは学士力の要件を備えることであり、学生の成長と満足度向上につながるものである。「コミュニケーション力」は、その前提として「情報の共有化」があって初めて発揮されるものである。情報のミスマッチは、中教審の答申にある大学と企業の間だけではない。大学内でも、学生と教職員、学生を指導・支援する教員（間）と職員（間）においても情報の共有がなされていないためのミスマッチが存在する。本プログラムの実践を通して、学生、教職員、企業それぞれの有機的な結びつきによる成長と満足度向上を図りたいと考えている。

(2) 達成目標

学内における学生、教職員のミスマッチを予防する情報の共有化を図りながら、企業と本学の情報の共有化を推進すること。学内における学生に対する情報伝達方法のシステム化等や、目的や目標に沿った情報の収集と選択を容易にすること。また、企業等多様なキャリア経験と専門的スキルを持つキャリアアドバイザーによる的確な指導体制は、NIIT人間力の形成を促進することとなる。評価指標は、就職内定率と個々の学生の意欲や適性・能力に適合する目標企業への就職率である。企業にあっては、受入れ学生に対する満足度を体系的、継続的に評価・収集し、より良い改善の仕組みを回すことである。すなわち、「お客様満足度の向上」である。これにより、本学の「キャリア教育トータルシステム」が、学生や受入れ企業から高い評価を得ることのできるコアコンピタンスになると確信する。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

(i) 情報の共有化とNIIT人間力の形成に向けた取組

学生、企業、教職員間の円滑なコミュニケーションと相互理解を促進するものである。

NIIT人間力の形成を考えてみる。

「挑戦力」について、学生が主体的にキャリアデザインを行い、それによって目標が明確になり行動化されながら「挑戦力」が発揮される。また、行動を最善化するためには、考える力、すなわち新しい可能性を考察し、好奇心から「創造力」へとつながっていく。さらには、目的を達成するために対話する能力、「コミュニケーション力」が磨かれていかなければならない。それは、傾聴力であり、理解・判断して表現力か

ら効果的な提案力・説得力を備えなければならない。

①業種別企業ガイダンス

一般的に学生は、知名度の高い企業＝優良企業と考えている者が多く、漠然と知名度の高い企業に入りたいと考えている者が多い。知名度の高い企業はどこか？と学生に問い掛けるとBtoC企業の名前が挙がる。逆に技術力や営業力がある企業であってもBtoB企業の場合は上場企業であってもその存在を知らない者も少なくない。

そこで、多くの企業の技術者の方々と大学に招き、実際の製品やパネルを持ち込んでもらい、企業と学生が直接コミュニケーションを図ることで、互いの情報の共有化を図ることを目的とする取組である。

これにより、企業が有する高度な技術を体感するとともに、NIIT人間力の育成にもつながり、ものづくり技術者としてのキャリア形成が図られる。



写真1 業種別企業ガイダンス①



写真2 業種別企業ガイダンス②

②学内合同会社説明会

本学学生の採用意欲の高い企業を大学に招き、企業と学生、企業と大学が、それぞれについての具体的な仕事内容や採用に関する情報の共有化を図るため、学

内合同会社説明会を開催する。

会社説明会では、学生がこれまで学生生活等により培ったNIIT人間力を発揮し、企業から様々な情報を引き出し、今後の進路に向けて情報交換を行う取組である。



写真3 学内合同会社説明会

③求人検索システム導入

学生に対し、企業の求人情報をリアルタイムに伝えるため、求人システムを導入する。これにより、学生は求人情報を確かかつ迅速に把握することが可能となり、円滑な就職活動に資する取組である。

④キャリアアドバイザーの配置

学生が企業から得た情報を有効に活用できるようにアドバイス体制を整えるため、毎週1回キャリアアドバイザーを配置する。

本学の学生は、新潟県内に就職を希望する者が多いことから、キャリアアドバイザーの人選に当たっては、県内企業で人事の経験を有することを重視した。カウンセリングにおいては、企業情報の整理や学生が自分の情報を正しく企業に伝えられるよう指導している。



写真4 学生とキャリアアドバイザーの面談

なお、カウンセリングは原則、個人単位として、1人あたり50分を目安としている。

(ii) 企業と大学（教職員）の情報の共有化に向けた取組

①就職研究会

学内合同会社説明会の機会を利用し、企業の人事担当者を対象とした就職研究会を開催する。本学の育てる人材像等を企業について説明し、就職のミスマッチを防ぐ等の効果が考えられる。また、大学の取組を知ってもらうことで、新たな職種への採用も期待できる取組である。

②就職用大学案内の作成と配付

全ての企業を訪問し、大学の設立の経緯や育成する人材像、教育目標や方針、教員の専門や研究テーマ等伝えることができないため、本学の取組を一冊の就職用大学案内にまとめる。この大学案内では、工学部の特性を生かし、研究室単位で情報をまとめ、卒業生から見た研究室の情報を加えるなどして、企業から見て分かり易い大学案内とする。企業にとっても就職のミスマッチを防ぐ意味でも重要な資料となる。

③教職員による企業訪問

前述のとおり、本学は企業の多大な支援により開学した大学である。開学の経緯からも、企業のニーズを調べ、教育への反映を図る必要がある。

これにより、企業満足度の高い技術者を育成することが可能となる。

(iii) キャリア教育や支援の評価・改善に向けた取組

①他大学のベンチマーキング

先進的な取組やGPを学び、キャリア支援や「キャリア教育トータルシステム」に生かしていくことが大切である。常に社会や企業、お客様の期待や要望は変化しており、学びの場もこれらを敏感に受け止めて改善し、成熟し、成長していかなければならない。

(2) 取組の実施体制

本学は、「キャリア教育トータルシステム」をコアコンピタンスとするために、学長を本部長とするキャリア教育推進本部が設置されている。就職に関するキャリア支援は、各学科から選出された教員で構成する就職指導委員会が担当して推進している。本学の学生支援体制は、1年次生から3年次生までは、6～7名の学生に対して1名の教員が助言教員として修学や生活に関する指導対応を行う仕組みが構築されている。4年次生は研究室に入り卒業研究を行うために研究室の教員が教育と就職支援を担当する。さらに就職に関

する全学的対応を就職指導委員会で審議・実施する仕組みができているために、交差した複数の教員による厚みのある、きめ細かな学生支援体制となっている。また、教員の要望によりキャリア・産学交流推進課の職員が連携・支援を行う。本学の企業対応は、各学科教員によって構成される新潟工科大学地域産学交流センターが担っており、企業と有効な連携が可能である。本取組は、就職指導委員会が中心となって実施する。

キャリア教育推進本部					事務局
(人間力育成評価事業部会)					
各種委員会	助言教員			非常勤指導教員	事務局
	1年次	2年次	3年次	4年次	
教務委員会	基礎ゼミ	—	—	—	学務課
	—	キャリア基礎	—	—	
	—	—	産業と大学	—	
	—	—	職業実習	—	
	—	—	—	卒業研究	
就職指導委員会	就職ガイダンス：キャリアデザイン	—	—	—	キャリア・産学交流推進課
	—	—	就職ガイダンス：企業研究、面接対策等	—	
	—	—	—	就職ガイダンス：就活アポイントメント講座	
	業種別企業ガイダンス			—	
	—	—	学内合同会社説明会	—	
	—	—	個人面談・相談		
地域産学交流センター	就職基礎力講座				学習支援センター
	基礎ゼミ：工学見学支援	—	—	—	
	産学交流会企業との連携窓口				
	—	—	—	本人開出支援	
学習支援センター	就職基礎力：基礎学力のサポート				学習支援センター

図1 キャリア支援機能図

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制

- ・評価委員会の設置 企業の人事担当者と大学教職員で構成
- ・他大学のベンチマーキング 評価委員会

(2) 取組の評価方法

- ・学生と企業のヒアリング調査により満足度を数値化
- ・活動状況は就職用大学案内にまとめ学内外に発信して評価を受ける。

6. 本取組の実施計画等

(1) 実施計画

企業との情報共有、及び学生の就職支援体制の強化を図るため、特に学生の長期休業期間を有効に利用し、各種プログラムを展開する。2年目以降は、評価委員会等の評価結果を基に、事業計画の修正を図り、3年目に本学のキャリア教育トータルシステムを構築させることを目指して事業を展開する予定である。

(2) 財政支援期間終了後の展開

本学の中期計画の最終年度が2012(平成24)年度であり、本プログラムの最終年度と同一であることから、本プログラムの結果を以て、本学のキャリア教育トータルシステムの構築につなげる予定である。